ＧＫ情報レポート

【2021 年発行】

vol. 65

秋号

発行者
権田金属工業株式会社　営業部
〒252-0212
神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16
電　話　042-700-0221
ＦＡＸ　042-700-0660
E-mail: eigyo@gondametal.co.jp
https://gondametal.jp

Contents

1. イオンモール　横浜西口店（仮称）の 2023 年秋開業を発表

2.戦後の横浜駅西口の発展

3.広幅銅ブスバーのご紹介

4 相場情報

皆様でご回覧下さい。										
回覧印										

※バックナンバー（Vol.1～64）を用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1.イオンモール　横浜西口店（仮称）の2023年秋開業を発表

権田金属工業（株）との建物賃貸借基本協定締結及び 「(仮称）イオンモール横浜西口」建築工事着工について

イオンモール株式会社（以下、当社）は、権田金属工業株式会社（以下、権田金属工業）と２０１９年２月に閉店した「ダイエー横浜西口店」跡地の土地活用、建物計画に関して合意し、建物賃貸借基本協定を締結しましたのでお知らせいたします。

■本開発計画の概要

本開発事業は、権田金属工業と独立行政法人 都市再生機構（以下、UR）の共同事業であり、権田金属工業が商業施設を、UR が住宅施設を建築し、当社は権田金属工業から商業施設を賃貸借します。尚、商業施設は、本年７月末に建築工事に着手する予定です。

■「(仮称）イオンモール横浜西口」開発コンセプトについて

『YOKOHAMA LIFE BASE』をコンセプトに、隣接する「横浜ビブレ」（当社関連会社である株式会社 OPA が運営）と併せ、横浜駅西口エリアの商業環境の賑わいに寄与できる施設として、また、地域の皆さまの日々の暮らしを支えながら、新たなニーズにお応えできる商業施設を創造して参ります。

■計画概要

・所在地：神奈川県横浜市西区南幸二丁目１６-１
・敷地面積：約 ７，０００㎡（商業施設）
・建物設置者：権田金属工業株式会社
・運営管理者：イオンモール株式会社
・延床面積：約３５，０００㎡
・賃貸面積：約２０，０００㎡
・開業予定：２０２３年秋 （商業施設）
・建物設置者：独立行政法人都市再生機構
・延床面積：約２０，０００㎡
・戸数：約２５０戸（賃貸住宅）
・竣工予定：２０２５年１月

（イオンモール　2021年7月20日ニュースリリースより）

2.戦後の横浜駅西口の発展

私は、横浜駅西口の現在進めている再開発事業の場所で 1950 年（昭和 25 年）に生まれました。当時そこには権田金属工業の伸銅品工場があり、隣接して自宅がありました。工場内は移動用の小さなトロッコなども引いてあり、子供にとっては格好の遊び場でした。

昭和 30 年頃の横浜西口

工場の周辺から駅とは反対方向の岡野町にかけては民家が立ち並び、商店や小さな工場もあり、それなりの町でしたが、西口にかけては大きな砂利置き場が広がっていました。夏には水たまりでトンボが取れたほどです。

ちょっとした買い物には伊勢佐木町まで行っていました。

当時の横浜駅西口は東口に対して裏口と言われるような何もないところでしたが、次第に開発が進められました。西口駅前の広場には 1955 年（昭和 30 年）にローラースケート場ができ、短い期間の営業でしたがそれなりに賑わっていました。

やがて駅前に名店街ができアーケードの中に様々なお店が出て、人通りも増えてきました。

西口が大きく変わりだしたのは、横浜高島屋が 1959 年（昭和 36 年）に開業してからです。当時 9 歳でしたが、初めて行ったときに下りのエスカレーターがあるのを見て、さすが大手デパートは違うと、子供心に感心したことを覚えています。
それまでよく行っていた伊勢佐木町のデパートにはエスカレーターは上りしかなかったのです。

以後西口は大きく発展していきました。
それまで伸銅品の工場を操業していましたが、町の賑わいが大きくなるにつれ、移転せざるをえなくなりました。
父はいろいろ探した結果、1963 年（昭和 38 年）に相模原の現工場の場所に移転しました。

移転用の土地として 3,000 坪ほどの土地を求めましたが、最低でも 10,000 坪を購入してくれと言われ、当時としては無理をして購入しました。

結果としてこれがあとあと良かったですが。

昭和 40 年頃の横浜西口

ダイエー

父は横浜駅西口の工場跡地をどうするかいろいろ考えていましたが、横浜市の職員の方からの勧めもあり、日本住宅公団（現都市再生機構（UR））と組み、土地の一部を公団に売却し、1、2 階を店舗に 3 階から 10 階までを賃貸住宅にすることにしました。

住宅の運営は公団がおこない、店舗はスーパーサンコーに賃貸しました。これは 1968 年に開業しましたが、ほどなくサンコーがダイエーに買収されたため、ダイエーに賃貸することになりました。
元の敷地内にあった空き地には権田金属がビルを建て、ダイエーに一棟貸にしました。ダイエーは、「西口から徒歩 4 分ほどかかるが、ダイエーの力でお客さんを集めて見せる。」と豪語していたそうです。

お店はその言葉通り繁盛し、40 年近くにわたって売上・利益ともに、ダイエーの店舗の中で優良店であり続けました。

横浜駅西口からダイエーにかけての道はそれほど広くなく一方通行になっていました。「パルナード通り」と言いましたが、電信柱があって歩きにくくどこにでもある普通の通りでした。父はパルナード協議会の会長になり、電信柱の地中化を進めました。かなり強引にやったようですが、すっきりとした歩きやすい通りになり、人通りを増やすのに貢献しています。

現在の横浜駅

横浜駅の乗降客数は 2017 年度 1 日平均 230 万人で、これは新宿、渋谷、池袋の各駅に次いで、鉄道駅として世界で 4 番目です。横浜駅西口駅前は今では横浜有数の繁華街になりました。

今回の再開発は、2009 年に UR から、現建物が最新の耐震基準を満たさないため立て替えたいとの申し出があり、その方向で検討を始めました。建物形状の決定や横浜市の認可取得のために 11 年という思わぬ長い時間を要しましたが、今回ダイエーに代わり出店して頂けるイオンモールの協力も得て、建設にこぎつけることができました。

ダイエー西口店は 2019 年 2 月に閉店しましたが、当日は大勢のお客さまが集り名残を惜しんでおられました。再開発の 9 階建ての店舗棟にイオンモールが 2023 年 10 月にオープンする予定です。この場所は、1918 年（大正 7 年）10 月に祖父が会社を興した創業の地です。土地の利用は変わりますが、土地を活かし地域の皆様にご愛顧いただけるように、イオンモールとともにこれからも力を尽くしてまいりたいと思っています。

なお、UR の住宅棟は高さが 22 階建て 75m ということもあり、完成は 2025 年 1 月の予定です。
（文中敬称略）

記者　権田源太郎

新ビル建設現場　2021 年 8 月撮影

3.広幅銅ブスバーのご紹介

当社では熱間押出によるコンフォーム押出製法と、ロールによる圧延製法の２つの製法で銅ブスバーを製造しております。
圧延製法は、厚さが 6mm 以上、幅が 40mm 以上となります。熱間圧延後に冷間圧延を行うメリットは、厚みと幅を面取りロールと幅寄せロールにより自由に設定出来る事です。その結果、特殊な寸法でも新規で金型(ダイス)を製作する必要がなく、ユーザー様で製品代金以外の余分なご負担なしにご希望の厚さ、幅の銅ブスバーを製造する事が可能です。また圧延ロールを何度も通しますので、内部組織が緻密になるのが特徴です。

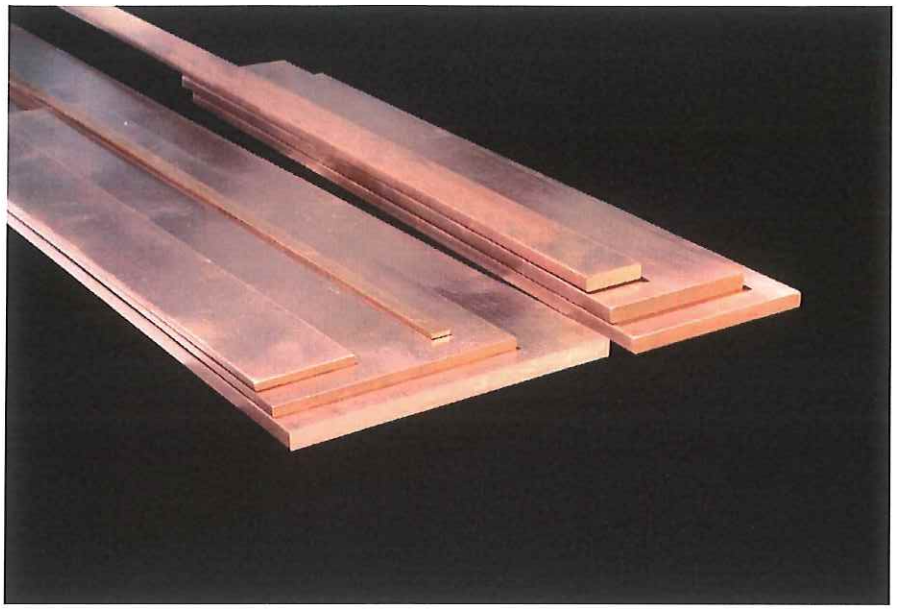
製造可能範囲(単位:mm)

黄色 ：コンフォーム押出製法　青色 ：圧延製法

厚さ thickness	幅(width)																						
	10	12	15	16	18	20	25	30	32	35	38	40	45	50	60	65	70	75	80	100	125	150	175	200
3																								
4																								
5																								
6																								
8																								
10																								
12																								
15																								
20																								
25																								

銅切板→銅ブスバーの切替えによるコストダウン

銅切板は元材からの切断による歩留りが悪い場合、切断賃も含めて高価格になります。
また最近は、切板のサイズによってはユーザー様のご希望される納期に銅板製造メーカーからの供給が追いつかないケースも増えてきております。
現在、銅切板を購入されており、納期が安定しないなど供給面で不安を感じられているユーザー様にはぜひ一度、従来の銅切板から当社の広幅銅ブスバーへの材料変更をご検討して頂きたいと考えております。
実際に銅切板から当社の広幅銅ブスバーへ材料変更されたユーザー様は、ここ１年ほどで着実に増えてきております。
まずはお気軽に当社営業部までお問い合わせください。



記者　日吉、小方

4.相場情報

１．電気銅建値推移

2021 年 6 月・・・1,170 円スタート(6 月平均 1,156.8 円)
2021 年 7 月・・・1,090 円スタート(7 月平均 1,090.0 円)
2021 年 8 月・・・1,110 円スタート(8 月平均 1,074.7 円)
2021 年 9 月・・・1,100 円スタート(9 月平均 1,078.9 円)

２．LME 在庫状況及び需給状況

LME 指定倉庫在庫状況は、今年初めは約 108 千トンでスタートしたが、その後徐々に減らし、2 月中旬には 74 千トンまで減少した。その後は増加に転じ、6 月末には 200 千トン超まで増加、9 月上旬時点では 240～250 千トンで推移している。

世界の銅需要の半分近くを占める中国の景気は、中国国内におけるコロナ収束後の急激な揺り戻し消費がピークを過ぎた為、緩やかな減速傾向にある。
実際に 2021 年 1～3 月期の中国の国内総生産は対前年同期比で 18.3%の増加だったが、コロナ禍からの回復のピークが過ぎた 4～6 月期は、対前年同期比で 7.9%の増加に留まった。

中国に限らず今後の世界経済における懸念事項の一つとして、あらゆる原材料の高騰による資源高が挙げられる。実際に中国は最近の世界的な資源高により企業収益が圧迫されており、企業の設備投資を今後下押しする可能性がある。
また中国は現在、不動産規制が強化されており、中国国内の不動産第2位の中国恒大集団が3,000億ドルを超える膨大な負債を抱え破産の危機に追い込まれているように、国内経済の需要圧迫が見られる。

ICSG(国際銅研究会)による5月発表の2021年年間予測では、地金生産25,167千トンに対し地金消費は25,088千トンであり、需給は79千トンの供給過剰、2022年も110千トンの供給過剰と見ている。また、6月下旬には2021年1～4月の世界の銅の実需給が、69千トンの供給過剰だったと発表している。

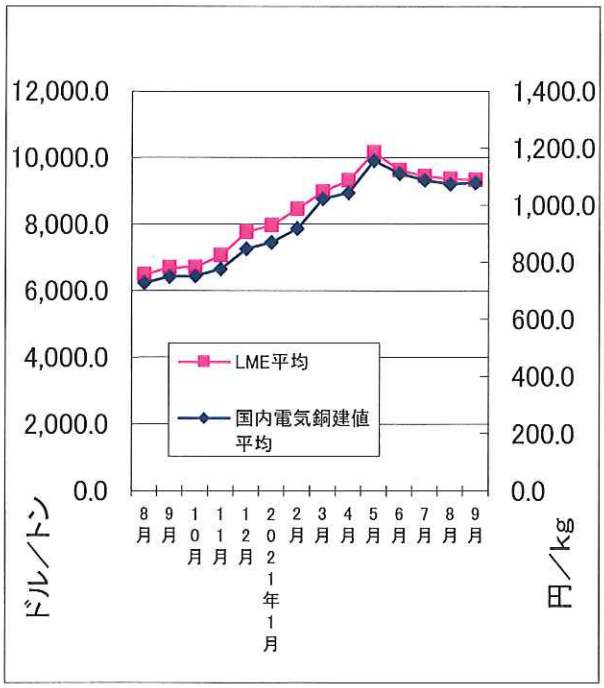
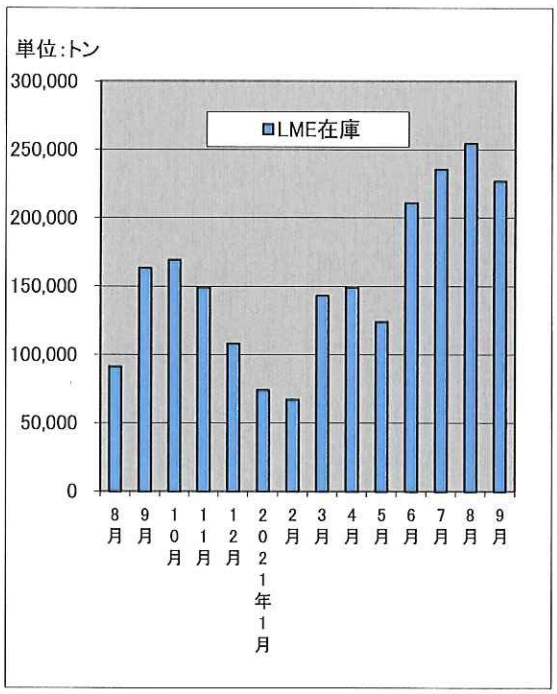
3．為替の見通し

ワクチン普及により新型コロナの感染ペースが一時は鈍化したが、最近はデルタ株が猛威を振るっている。米国経済は堅調な雇用の回復が続いているが、デルタ株による感染再拡大を恐れ、消費者心理の悪化が顕著となっている。実際に物価の動きを見ても、前年比では4%前後と高い伸びが続くが、前月比の伸びは1%未満と依然として鈍化傾向が続いている。これはインフレを一時的としてきたFRB(米連邦準備理事会)の考えに沿う形となっており、利上げを含む金融政策を前倒しして進める必要性に乏しい。FRB は労働市場が十分に回復するまで緩和的な政策スタンスを維持する構えと見られる。その為、米国における利上げ開始時期は当面先になると思われる。

4．今後の見通し

バイデン米大統領は、『バイ・アメリカン』（政府調達において米国製品を優先する政策）の強化を表明している。2020年の中国の輸入総額の内、米国が占める割合は約7%に対し、米国の輸入総額に占める中国の比率は約 20%だった。半導体などの安全保障上の焦点である電子機器分野に限れば、米国の対中輸入比率は33%に上る。近年、電子機器分野の重要性は急激に高まっており、このような貿易構造から見た米中摩擦はトランプ前政権時代と比べても中国優位で展開する可能性が高い。

世界の銅消費の主要国である中国に、コロナ禍からの回復に陰りが見えてきたが、再び銅需要が旺盛になれば今後は供給不足が予測される。しかし中国国内でのコロナ感染再拡大や米中貿易摩擦が悪化した場合は、逆に供給過多になる可能性もある。

短期予測(1M)　LME　　＄8,800～9,600/ｔ　　為替　108～113 円/＄
　　銅建値　990～1,120 円/kg
長期予測(3M)　LME　　＄8,600～10,000/ｔ　　為替　105～113 円/＄
　　銅建値　980～1,150 円/kg

記者　高橋